



王寺町文化財保存活用地域計画 概要版



令和元年7月 認定
王寺町

作成の背景と目的

<背 景>

○文化財をとりまく状況

- ・少子高齢化などによる文化財の継承の担い手不足と文化財の滅失や散逸などへの対応が喫緊の課題
 - ・まちづくりを進めるなかで、地域の特色ある文化財の掘り起こしや活用の機運の高まり
- 文化財をまちづくりに活かしつつ、地域社会総がかりで、その継承に取り組むことが求められる

○「文化財保護法」「地域教育行政の組織及び運営に関する法律」

地域における文化財の計画的な保存・活用の推進や地方文化財保護行政の推進力の強化を目的に改正平成31年4月1日施行

文化財保護法第183条の3に基づいて「王寺町文化財保存活用地域計画」（以下「地域計画」）を作成

<目 的>

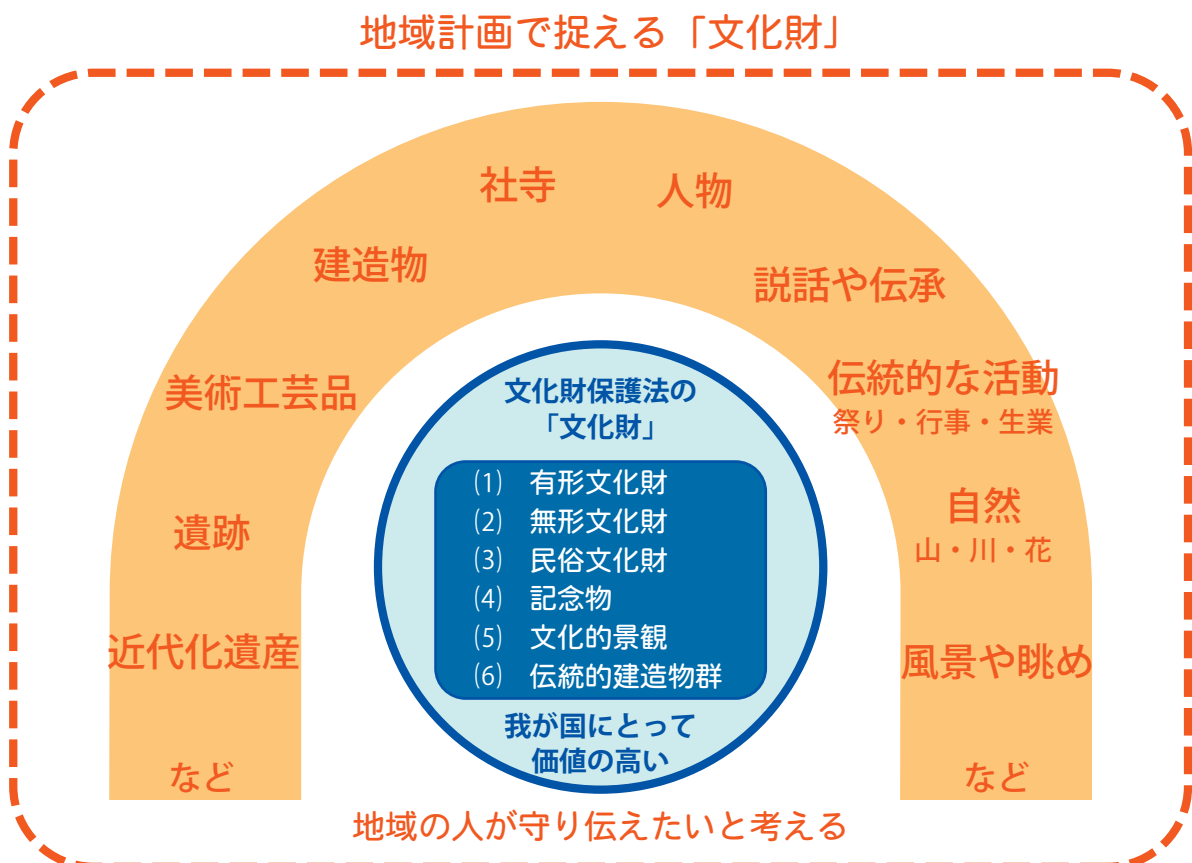
住民・地域・町などの多様な主体が連携して、指定・未指定にかかわらずあらゆる文化財とその周辺環境までを一体的に捉えて保存・活用するため

<計画期間>

2019年度から2028年度の10年間

地域計画で指す文化財の範囲

この地域計画では、地域の人々が守り伝えたいと考える物（モノ）・事（コト）・所（トコロ）のすべてを広く「文化財」として捉え、保存・活用のための計画を取りまとめます。

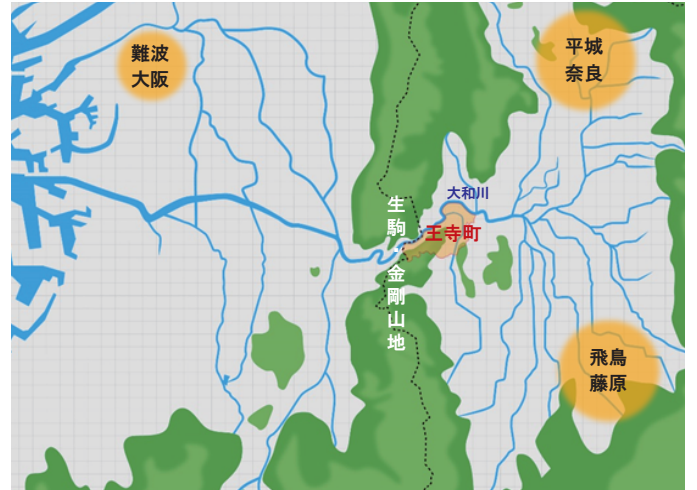


王寺町の成り立ち

王寺町の北には大和川が流れ、西には生駒・金剛山地があります。大和川は奈良盆地内を流れるすべての川水を集めて、生駒・金剛山地を切り抜くように大阪平野に流れ出ており、奈良盆地から山越えを要しないで唯一出入りできるのがこのルートで、王寺町はまさに大和の玄関口に位置しています。

王寺町の成り立ちには、こうした地理的な要件が深く関係し、古代から大和川・竜田道といった水陸交通によって先進的な文化がいち早くもたらされました。

明治時代には鉄道が敷設され、高度経済成長とともに大阪のベッドタウンとして大きく発展し、人口の増加とともに鉄道の町として駅前に商業施設が集中しています。



文化財に関わる取り組み

王寺町で文化財に関する本格的な取り組みが始まったのは、平成9年の町史編纂事業からです。交通に恵まれた地理的要件によって古代から近代に至る貴重な文化財が数多くあり、引き続きあらゆる文化財の調査・研究を行って保存するとともに、これからの町づくりに文化財を活用することが重要です。

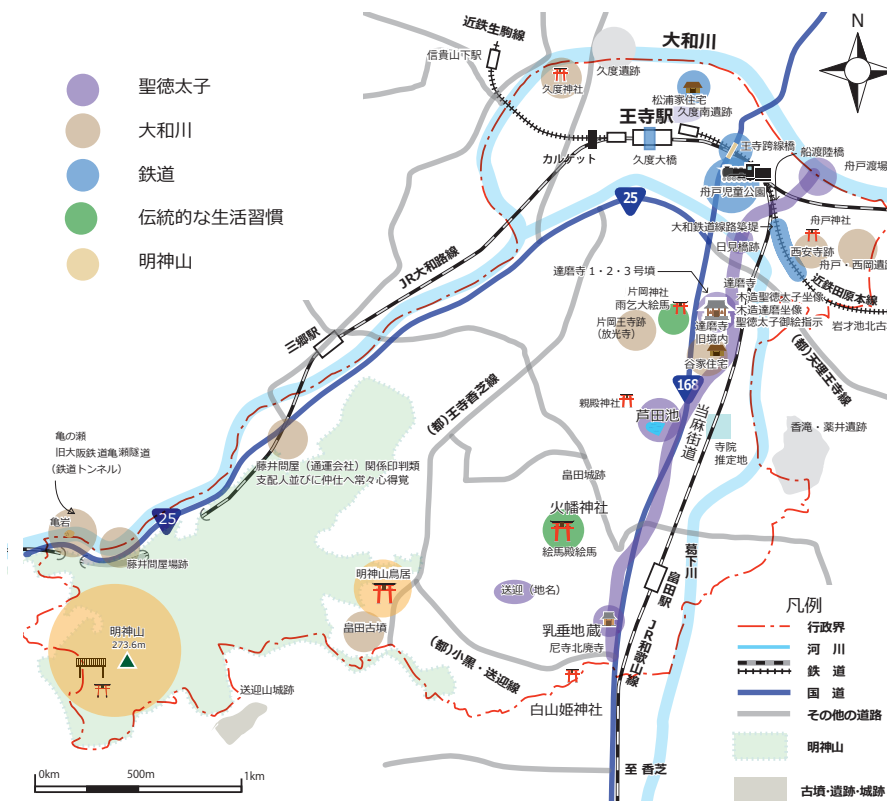
達磨寺に伝えられてきた石造文化財である聖徳太子の愛犬・雪丸が町のシンボルとなり、町民をはじめ日本全国の人々の興味関心を引き起こしている現状は、文化財を活用することで町に新たな活気を生み出す好事例になっています。



キャラクターの雪丸

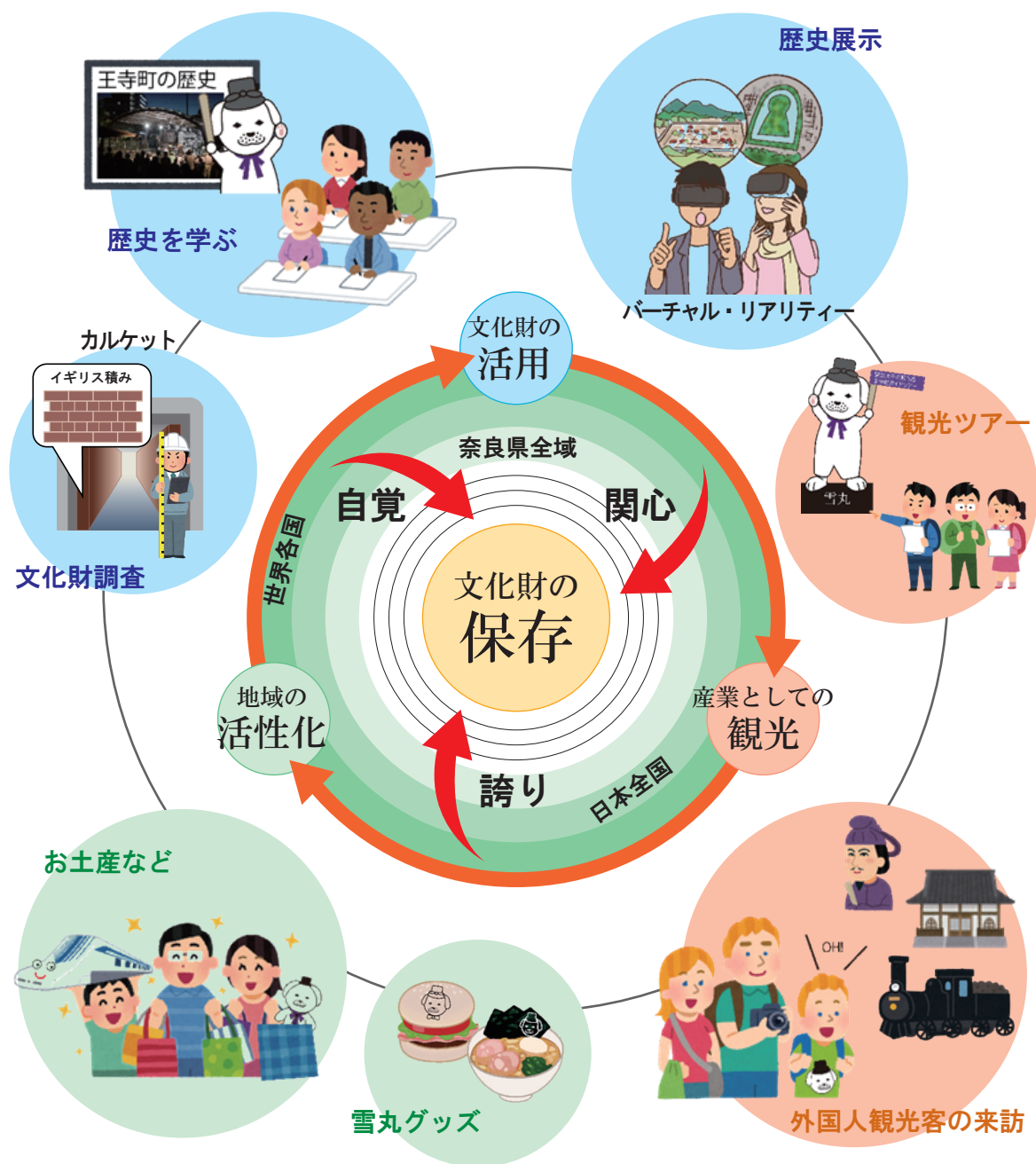
文化財の特色

王寺町の文化財を活用するにあたって整理すれば、おおむね次の5つに特色づけることができます。



にぎわう王寺の「モノ・コト・トコロ」

～世界が注目する聖徳太子の愛犬・雪丸のまち～



王寺町における文化財の保存と活用のコンセプトを「にぎわう王寺の『モノ・コト・トコロ』～世界が注目する聖徳太子の愛犬・雪丸のまち～」とします。これは、雪丸のように王寺町の文化財（モノ・コト・トコロ）を活用することで、世界規模で王寺町を知ってもらい、産業を起こし、町に活気をもたらしそうとするものです。

具体的には、文化財を活用することで産業としての観光を確立させ、地域を活性化させるサイクルに重点を置きます。こうしたサイクルが住民の文化財に対する関心と呼び、地域に対する愛着・誇りを生み、自ら文化財を守り伝えようとする自覚となって、最終的に文化財の保存へと結び付きます。また、「文化財の活用」「産業としての観光」「地域の活性化」のサイクルは住民だけでなく、日本全国から世界各国へ交流と保存の輪を広げます。このコンセプトを実現させるために、文化財の保存と活用に関する方針を次のように定めます。

保存と活用に関する方針

基本理念

王寺町の貴重な文化財を将来に伝えるために

- ・保存に万全を期し、影響を与えない範囲において適切に活用する
- ・活用に際しては、その時点における学問的な成果に基づいて行う

方針3 文化財の特徴をみがく

多くの人々が王寺町を知り、理解し、関心を持てるように、王寺町の特色ある文化財をブラッシュアップします。特に明神山は、大和・河内の歴史や自然が眺望できる地点として、文化財の新たな価値を創出します。そうすることで、王寺町に魅力を感じて訪れる人を増やし、社会全体で文化財を保存する体制につなげます。

方針1 文化財を掘り起こす

王寺町には、いまだ指定に至っていない未指定の文化財が数多く存在しています。このような文化財について継続的な調査・研究を進めるほか、住民が身近に感じている自然・景観など、これまで十分に組み込んでいなかった文化財についても調査・研究することで、新たな文化財を掘り起こし、知られぬままに失われてしまう文化財をなくします。

方針4 文化財を生かした交流

人口の減少や高齢化により文化財保存の担い手も減っていくなか、文化財を活用して交流人口を増加させ、観光による地域の活性化を図ることで、町民をはじめ日本全国・世界各国の人々を巻き込んで文化財の保存に結び付けます。

方針2 文化財を守る

王寺町の文化財の保存や継承のため、文化財の調査・研究に基づいて新たな文化財指定を行うとともに、それらの保存修理事業を行います。また、文化財の防災・防犯体制を整備し、地域の見守り活動を実施します。そうすることで、文化財の保存を確実なものとしします。

方針5 文化財の拠点づくり

文化財を掘り起こし、みがき、多くの住民を巻き込んで文化財の保存・活用を進めるには、核となる拠点施設が欠かせません。そのため、文化財を保存・展示し、人の交流を生み、地域の活性化が図れるような総合博物館の整備を進めることで、王寺町全体で行政・地域・住民が一体となって文化財の保存と活用を図る基盤とします。

王寺町の関連文化財群

文化財による王寺町のまちづくりを進めるため、5つの関連文化財群を設定し、物語としてストーリー化します。

ストーリーⅠ 聖徳太子を慕う道

聖徳太子は推古天皇 30 年 (622) に斑鳩で薨去され、ご遺体が墓のある磯長 (大阪府太子町) まで葬送されました。「聖徳太子の道」の沿道には、聖徳太子に伝わる伝説・伝承が多く残っています。

構成文化財

- ①旧当麻街道 ②舟戸渡し場跡 ③日見橋跡 ④飢人伝説 ⑤木造聖徳太子坐像
⑥木造達磨坐像 ⑦聖徳太子御絵指示 ⑧石造雪丸像 ⑨芦田池 ⑩送迎 ⑪乳垂地藏
⑫道標

ストーリーⅡ 大和と難波をつなぐ中継地

王寺町には地理的に大和川を通じた大和の玄関口にあり、大和の都と難波の海とをつなぐ中継地としての役割を担い、集落や寺院が営まれ、江戸時代には舟運の物流拠点として栄えました。

構成文化財

- ①舟戸・西岡遺跡 ②舟戸山古墳 ③畠田古墳 ④西安寺跡 ⑤片岡王寺跡 ⑥久度神社
⑦藤井問屋場跡 ⑧龍田川 (『大和名所図会』挿絵) ⑨藤井問屋 (通運会社) 関係印判類
⑩支配人並びに仲仕へ常々心得覚 ⑪谷家住宅 ⑫谷家船材転用壁板

ストーリーⅢ 鉄道のまち王寺

奈良県で初めての鉄道となる王寺・奈良間が開通し、明治25年(1892)に湊町・奈良間が全通すると、またたく間に発展を遂げました。さらには、和歌山線、大和鉄道、信貴生駒電気鉄道と王寺駅を中心とする鉄道網が形成されました。

構成文化財

- ①蒸気機関車 D51 (舟戸児童公園展示) ② D51 プレート・行先表示板
③カルケット (レンガ積み開渠) ④葛下川修堤碑 ⑤松浦家住宅 ⑥船渡陸橋
⑦大和鉄道線路築堤 ⑧北新道商店街 ⑨王寺跨線橋 ⑩久度大橋

ストーリーⅣ 受け継がれるご先祖様の祈り

王寺町にも江戸時代以来、人々が生活した集落があり、農業を中心にして雨乞いや絵馬の奉納、庚申・伊勢といった様々な講、各神社での秋祭りや太鼓台の引き出し、稚児行列も行われる達磨会式などの伝統的な生活習慣が伝えられてきました。

構成文化財

- ①火幡神社絵馬殿絵馬 ②片岡神社雨乞大絵馬 ③ナモデ踊り ④送迎太神宮遺品
⑤太鼓台 ⑥片岡神社宮座 ⑦達磨会式 ⑧井戸がえ ⑨地蔵盆 ⑩八朔 (水神社)
⑪トンド ⑫片岡八郎公墓碑 ⑬御陵さん (孝霊天皇陵)

ストーリーⅤ 明神山からの歴史眺望

明神山は標高273.6mと低い山ながら360度のパノラマが楽しめる場所であると同時に、飛鳥時代に開かれた修験の道や江戸時代の送迎太神宮、現代の水神社など信仰を集める山でもあります。明神山からの眺望は、1800年の時の流れを歴史絵巻のように楽しむことができ、新たな文化財としての価値を見出すことができます。

構成文化財

- ①送迎太神宮跡 ②葛城修験28宿 ③送迎山城跡 ④大和川の眺望 ⑤亀の瀬の眺望
⑥古墳群の眺望 ⑦世界遺産の眺望 ⑧青垣四方の眺望 ⑨明石海峡・淡路島の眺望



文化財の保存と活用に関する措置

文化財の保存と活用に関する方針に従い、文化庁の各種補助金や地方創生推進交付金などを財源として、王寺町が実施する事業内容及び実施計画期間は次のとおりです。

〈ストーリーとの関連〉 Ⅰ聖徳太子 Ⅱ中継点 Ⅲ鉄道 Ⅳ折り Ⅴ明神山
 〈取組主体〉 ◎：中心に取り組む ○：協力 △：協力体制

方針 1 文化財を掘り起こす

No.	事業名	ストーリーとの関連	取組主体			実施計画期間		
			住民	地域	行政	2019-21年	2022-25年	2026-28年
1	西安寺跡発掘調査	Ⅰ、Ⅱ	△	○	◎	●		
2	片岡王寺跡発掘調査	Ⅰ、Ⅱ	△	○	◎		●	●
3	記念物（自然・景観）調査	—	△	○	◎	●	●	●
4	行事・祭礼調査	Ⅳ	○	○	◎	●	●	●
5	古文書所在調査	—	○	○	◎	●	●	
6	古民家調査	Ⅳ	○	○	◎		●	●
7	古文書調査	—	○	○	◎	●	●	●
8	王寺駅前商店街町並み再現調査	Ⅲ	◎	○	○		●	●
9	文化財のデータベースづくり	—	△	△	◎	●	●	●

方針 2 文化財を守る

No.	事業名	ストーリーとの関連	取組主体			実施計画期間		
			住民	地域	行政	2019-21年	2022-25年	2026-28年
1	文化財の指定・登録	—	○	○	◎	●	●	●
2	明神山の文化財指定	Ⅴ	○	○	◎	●	●	
3	達磨寺方丈保存修理工事	—	○	○	◎	●		
4	保存修理体制の構築	—	◎	○	◎	●	●	●
5	町文化財保護指導委員の設置	—	◎	○	◎	●	●	●
6	防火訓練の実施	—	○	◎	○	●	●	●
7	防犯設備の整備	—	◎	○	○		●	●
8	防犯体制の構築	—	○	◎	○		●	●
9	防災体制の構築	—	○	○	◎		●	●
10	文化財見守り活動の実施	—	◎	○	○		●	●

方針 3 文化財の特徴をみかく

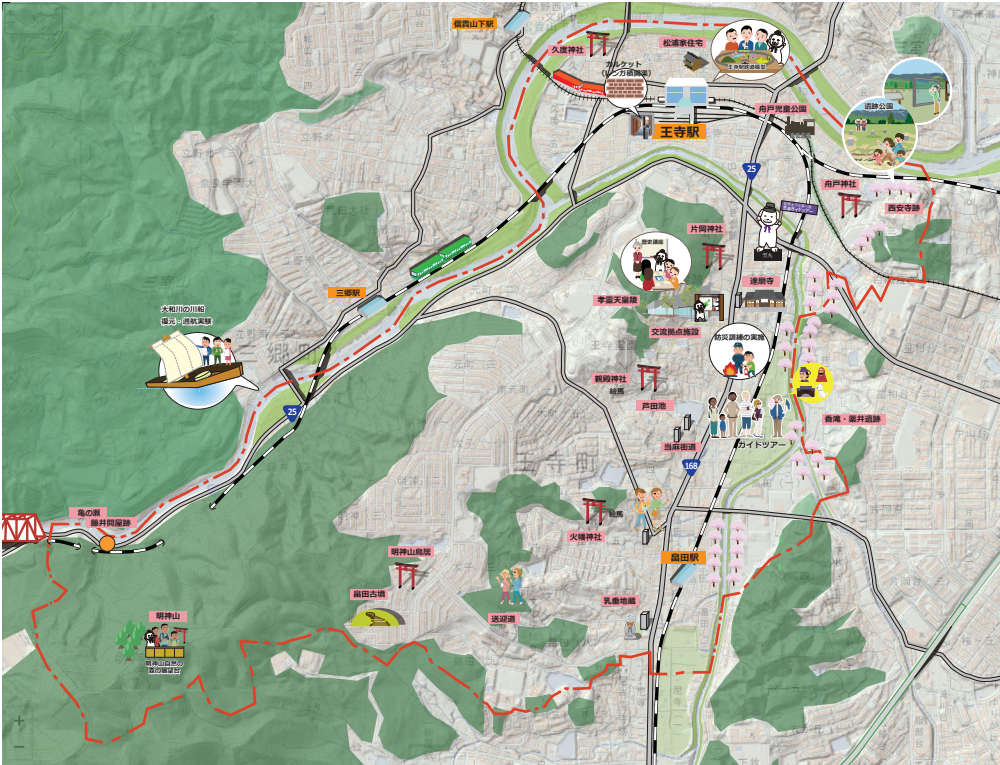
No.	事業名	ストーリーとの関連	取組主体			実施計画期間		
			住民	地域	行政	2019-21年	2022-25年	2026-28年
1	歴史講座の実施	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	○	○	◎	●	●	●
2	文化財プロモーション	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ	△	△	◎	●		
3	学校教育との連携	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	○	○	◎	●	●	●
4	「片岡山のほとり」複製品作製	Ⅰ	△	△	◎	●		
5	達磨寺方丈ユニークベニュー	Ⅰ	○	○	◎	●	●	●
6	太子葬送行列の再現	Ⅰ	○	○	◎		●	●
7	西安寺跡の整備	Ⅰ、Ⅱ	○	○	◎		●	●
8	片岡王寺跡の整備	Ⅰ、Ⅱ	○	○	◎		●	●
9	明神山歴史年表の作成	Ⅴ	△	△	◎	●		
10	明神山での狼煙体感イベント	Ⅴ	○	○	◎	●	●	
11	明神山広域観光ルート整備	Ⅴ	△	△	◎	●	●	
12	明神山山頂・参道整備	Ⅴ	○	○	◎	●	●	
13	送迎道の整備	Ⅰ、Ⅴ	○	○	◎		●	●
14	明神山からの眺望/バーチャル・リアリティー	Ⅴ	○	○	◎		●	●
15	大和川の川船復元	Ⅱ	○	○	◎			●

方針 4 文化財を生かした交流

No.	事業名	ストーリーとの関連	取組主体			実施計画期間		
			住民	地域	行政	2019-21年	2022-25年	2026-28年
1	住民への地域計画の周知	—	○	○	◎	●		
2	協議会の設立	I、II、III、IV、V	○	◎	◎	●		
3	住民が参加できるシステムづくり	—	◎	◎	◎	●	●	
4	観光協会との連携	I、II、III、V	○	◎	○	●	●	●
5	観光ボランティアガイドの育成	—	◎	◎	◎	●	●	●
6	聖徳太子プロジェクト	I	△	○	◎	●		
7	雪丸グッズの充実	I	○	◎	○	●	●	●
8	鉄道フェスティバルの実施	III	◎	◎	○	●		
9	松浦家住宅の利用促進	III	◎	○	◎	●	●	
10	ジオラマ鉄道模型の作成	III	○	◎	○		●	●
11	雨乞い満願祭礼の再現	IV	○	◎	○		●	●
12	旧街道の景観整備	I、II	○	◎	○			●

方針 5 文化財の拠点づくり

No.	事業名	ストーリーとの関連	取組主体			実施計画期間		
			住民	地域	行政	2019-21年	2022-25年	2026-28年
1	文化財業務の移管	—	△	△	◎	●		
2	周遊ルートの設定	I、II、III、IV、V	○	○	◎	●	●	
3	周遊パンフレット・マップの作成	I、II、III、IV、V	○	○	◎	●	●	
4	説明板・サイン表示の整備	I、II、III、IV、V	○	○	◎	●	●	●
5	周遊アプリの開発	I、II、III、IV、V	○	○	◎		●	●
6	旧当麻街道のカラー舗装	I	○	○	◎		●	●
7	旅行商品の企画	I、II、III、IV、V	○	◎	◎		●	●
8	博物館の整備	I、II、III、IV、V	◎	◎	◎		●	●



＜文化財による王寺町のまちづくりイメージ＞